

【決議案】

## 保険でより良い歯科医療を 患者負担大幅軽減！後期高齢者医療の即時廃止を求める

自公政治を退場に追い込んでから8カ月がたちました。社会保障費抑制政策の転換に象徴されるように、国民要求と一体となった私たちの運動が、目に見える形で民主党政治を動かしています。

今回の診療報酬改定では、歯科はプラス2.09%の改定となりました。しかし、自公政権による構造改革の中で、国民の貧困化が進み、家計を切り詰めるために真っ先に歯科受診が控えられてきました。また、長年の低診療報酬政策も相まって、歯科医院経営も破たんしてきています。歯科医学の進歩に見合った必要十分な歯科医療を享受する国民の権利を守り、発展させ、その基盤となる歯科医院の経営を安定化させることは喫緊の課題です。

深刻な不況で医療費の窓口負担を払えない人や、経済的理由で受診を控える人が後を絶ちません。重い窓口負担が命すら脅かしています。誰もが、お金の心配なく受診できるように、国の責任で患者負担を軽減することを強く要求します。

国民の批判を一斉にあびた後期高齢者医療制度は、新政権は「廃止する」とした公約を後退させ、4年間先送りを表明しました。それどころか、新しい高齢者医療制度案では、負担増の仕組みを残し、年齢差別を65歳以上に拡大する最悪の方向を示しています。後期高齢者医療制度は速やかに廃止し、当面は老人保健制度に戻したうえで、新たな制度づくりに着手することを強く求めます。

以上、決議する。

2010年5月15日

大阪府歯科保険医協会第46回通常評議員会